
彼 私≡the near

日高 マドカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼私≡the near

【Nコード】

N2435G

【作者名】

日高 マドカ

【あらすじ】

触れられない距離こんなに近くににいるのに恋をしよう。2人で…

僕等の存在

朝。

私達は目を覚ました。

その存在に

気付いたのは

ごく最近だった。

おはようロア

おはようナーヴ

二重人格…だ。

それを知るモノは
いない。

そして、

この体の中にいるのは

私とロア。

男だ

しかも

Mっ気な性格の私
と

Sっ 気な性格の彼

性別と性格が
対になる魂が
ココに存在する

体の名前は
郁「カオル」

彼は私を
郁と呼んでいたが
私は拒んだ。

そして、
互いに名前を
付けた。

彼の名前は
ロア

私の名前は
ナーヴ

体は共存の為
意外な名前では
なかった。

ロア、意味は噂話

だけど
彼を知るモノは
いない

ナーヴ：意味は神経

彼の神経に、
想いに、
なるために。

誰かに
ロアのコトを言うコトは
ない

私は
ロアを
愛してるからー…

血の繋がった兄妹
禁断の恋
なんかじゃない。

私とロアこそ
禁断の恋

触れられない。

だけど

優しくて

こんなにー…

ナーヴ、遅刻だぞ

「きゃあ！！！！」

鞆を持つて

階段を降りる

間に合わなそう…

ロア！！

主導権交代！！！！

うおっ！！！！？

体の主導権は

即座にロアに移る

ロアありがと

1人だけ

ラクしやがって

ゴメン

ハア…学校では寝るからな

うん！！！！

ロアが存在に

気付いたのが

最近だから

ロアに主導権を渡したのも最近。

だから

ロアの主導権の継続時間は短い。

1日のほとんどが私だ。

中1の時。

ロアの継続時間を延ばすために授業時間以外

主導権を渡しまくったコトがある

おかげで、

1年の時の私のイメージはDS。

Mの私には

つとまらない。

だから

1年の女友達には

ロアでいく。

ロアが他の人と話してる
ただ それだけで

嫉妬に狂いそうだよ

ロア：

あゝ？

楽し…い？

…ナ—ヴ？

ロア：大好き

ナ—ヴ。

ロア？

…主導権交代だ。

雰囲気壊すな馬鹿

うるせー

あ

一方的に主導権は交代され

彼は そつと

眠る

ロア：

ロオ—ア

あゝ？

明日テストなんだけどー…ね？

…分かったよ

ヤッタ
♪

で、教科は？

国語、音楽、技家♪

思いつきり

ナーヴの担当じゃねえか（怒）

…ヤーダ

テストいやあ

黙れ

むー

体は共存

でも、

頭の使い方は
違う

上手く使える教科もあれば
苦手な教科もある

さらに 言うなら

体の使い方も違う

体育は全体的に

ロアが担当

最初の準備運動は
私。

体力を使わないようなモノは

ほとんど私の担当

体力を使っても
限界までは
私がやる

さて、ロア。

ゲームを
始めましょう？

〈第1の日〉

〈僕等は、出会った〉

今朝。

ニユースでは

今年1番の寒さだ
と言っていた。

可愛いとは言えないけど
ブサイクとも言えない
お天気お姉さんが
言っていた

それだけ、
彼女は
言っただけ。

凍りついたような
ヘタクソな笑顔で
そう言っただけ

だけど 今日は
本当に寒かった

1時間目の
体育は
死にそうなくらい
寒くて

可愛くもないジャージを着た

女の子達は

ガタガタ震えてた

なのに

こんな寒空の下

男子達は

半袖だった

「うわぁー

ありえねえー」

「おかしいだろー」

「うへえ……」

女子の反応は

もつともなモノだった。

すごいなー

男子って

元気だよな

いや、違っただろ

そこ問題じゃないだろ

え???

「郁ー

持久走はじまるよー」

「うーん」

慌てて集合する

ロア……

……分かってる

ロアは

主導権を交代すると

人の輪から

1歩離れた

ピー

郁という身体は

1周目で

すでに息があがっていた

2周目からは

かなり足にクル

3周目あたりから

ロアは空を

眺める

何を考えてるかは

私には分からない

ロアと私は、

身体は同じでも

魂が違う。

なんで

13年も

彼は出てこなかったんだろう

13年もの年月
1人ぼっちなんて
気が狂いそうだ

ザッ

ロアは
足を止めて
振り返った

□

「へえ」

ロアは、
私の音「コエ」を
遮った。

視点の先には
彼女がいるだけ

彼女の名前は

笹原 結花

「ササハラ ユイカ」

可愛いくて
優しくて
優柔不断な娘

ロア？

ロアは

私に答えなかった

初めて

ロアが私を
見なかった。

ロアの世界には

私しか いなくて
だから

嫉妬なんて
あんまりなくて

でも、

でも、今は

え？ロア？

ロアは

結花に歩み寄ると

「大丈夫？

辛そうだよ？」

「足が…」

「あ。

先生呼んでくるから
アッチで座ってなよ」

そう言っ

手を差し伸べて
彼女に触れた。

ロアが

初めて話しかけた

ロアが

初めて自ら触れた

ロアが

初めて優しくした

なんだろう

このモヤモヤ

嫉妬に

狂いそう

ロアの中に

興味のある女の子が
できた？

優しいのは

彼女に恋をしたから？

ああ クラクラする

無理矢理

主導権を奪ってやろうかとも
思った。

だけど、

今 主導権を奪ったら
泣いてしまうから

私は ただ

ぼんやりと眺めていた

そして、

心を閉ざした

心を閉ざした私が

目覚めたのは

掃除が始まる時だった。

時刻は、

2：55。

アレから

5時間近くなっている

悪いなナーヴ

え？

限界だ

ロアは私に

主導権を押しつけてきた

「わっ！！」

突然の交代に

ふらつき

誰かとぶつかる

「ごめんなさい!!」

慌てて顔を上げると

彼女だった。

「ううん大丈夫。

今日　ありがとうね」

「ううん!　いーの!!
気にしないで」

ホラまた

涙出そう。

私　こんなに

こんなに

ナーヴ交代だ

ロアは無理矢理

主導権を奪おうとした

ヤダ!!!!!!

オイ!!

ロアが手荒に奪おうとする

痛い…

魂がきしむ

それでもロアが

意識を手放さない

!!!!

ついには

男の魂に負けて

私は主導権を

手放した

「こんなにも

私は君を

愛してたんだ…」

君に触れられない世界は
色無い世界だった

それは、

1面の白銀世界。

ただ冷たい日々が
募るばかり…

ナーヴ？悪いな

そんな悪役みたいなセリフ
吐かれても
どーにもできないよ

ナーヴ…

私が返答しないと
分かったらしく

彼は

彼女のトコロに
行ったわ

そこで

意識を落として

眠りについた

ナーヴ

そこは、暗闇。

何もない。

黒だけ…

星もちりばめられない

宇宙のような場所

そこは…

夢の中。

漆黒の中

ただ色白い肌の

私とロアが浮かぶ

もう…夜？

ああ。

ピンクのワンピース

いつもと同じ

私の夢の中の服。

ロアは、

白シャツに

ジーンズ。

変わらない

夢の中…

久しぶりのロアだ…

肩につくか

つかないかの

髪の長さ

キレ長の目

高い伸長に

持て余した足

綺麗なスタイル

いつも聞こえる

低くて甘美な声

全ての虜になつてるよ…

ゴメンね…

ナーヴ？

私、なんか、

モヤモヤしてんの

見てる、

嫉妬よりも醜いような

名前も付けられないような

見てる、ロアが、

こんな自分

ヤダよ…

見ないで、

醜いよ、私。

私、心の中で

ロアには私しかない
って

苦しい

ロアの世界の全ては

私だって

…思ってた

自分がいたの！！

哀れな私がいる

身体は女だから

ロアが誰かを好きになっても
平気だって

思ってた…！！！！

違ったんだ

ロアの…

ロアの心は…

魂は…

それでも、

愛すコトが出来るのに…

奪われないなんて

思ってた…

私、どうすれば

いい…？

ロアが私に

近付いて

髪を撫でた

触れてる

だけど

体温がない。

まさに

夢の中、、、

ナーヴは

間違ってないよ

…エ？

顔を上げると

綺麗な顔がある。

うつすら笑みを浮かべて。

な！？

そこで

全てが彼の計画だと気付く。

俺の世界の全ては
ナーヴだ。

やられた

お前以外いないよ

ハメられた

俺の世界には

お前だけ。

ナーヴが

そうであるように

ハメたな!!!?

なんのコト?

くっそっ

何?

ナーヴには

他に誰かいるの?

いませんよ

ホラ…ね?

私は

いつだって

アンタに惚れてますよ

コノヤロー

(赤面)()

そうして

ギュツとした

ロアには

やっぱり

体温がなかった。

「いつか

君の体温に触れますように…」

そう願ったのは
君もだろう

どうだった？
初めての嫉妬は？

やっぱ

計画的犯行だったのか。

うーん

そうかもね。

そんなコトしなくても
いつでもアンタに
夢中ですよ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2435g/>

彼 私 = the near

2010年10月28日03時47分発行